

## 一般質問

Q 将来的な人口減少、少子高齢化対策は



村井 フミ子

町長は町政執行方針の中で、「将来的な人口減少、高齢化率を常に念頭に置き、将来性のある町づくりに邁進する」と述べているが、少子高齢化の進む現状の中で、町づくりの中核となる若い人たちの流出をどのように食い止め、どのような定住対策を進めていくのか次の点について伺う。

一、高齢化率上昇と今後の町づくりについての具体的な構想はあるのか。

二、単身者が増えている傾向にある中、未婚者に対する支援策についての考えを伺う。

A 高齢者に不安のない生活環境を維持し、就労・住環境・子育て支援など総合的な対策が必要

町長 関 次雄

一、高齢者の方々が産業振興に参加できる体制づくりのため、当町の基幹産業である農業分野において、経験や知識を伝承する農業施策の構築に向け、関係団体の理解のもとに検討を開始したところである。また、永年、町の発展に尽力された高齢者の方々に敬意を表し、生きがい対策や福祉対策など、不安のない生活環境を維持する施策の実施も必要と考えている。

二、近年は社会的状況の変化により、プライバシー保護や個人的な趣向の違いにより、行政が直接支援策を講じるためには多くの協議が必要となる。また、出合いの場を設けることだけでなく、就労の場の確保、住環境、子育て支援策など総合的な支援を考慮しなければならない。具体的な支援策を展開する前提として、プライバシー保護に配慮しつつ現状把握を行い、そこから見える状況を分析し、個々の状況に即した出合いの機会を生む環境づくりや支援策を検討する必要がある。

Q エゾシカの処理対策は



山内 裕

一、先の新聞報道で、留萌南部衛生組合の補正予算案採決の際に、反対者が3名いたとのことであるが状況の説明を求める。

二、ごみ処理の広域化により、来年度から駆除したエゾシカが最終処分場に搬入できなくなることであるが、これまで一般廃棄物として処理してきたものを今後どのように処理していくのか。

三、ごみ袋の新材料金が現状（可燃・不燃・生ごみ21円／35円）より高くなり、80円ほどになるようであるが、現時点でどのような状況となっているか伺う。

A 今後、処理方法を検討する

町長 関 次雄

一、9月3日に開催された留萌南部衛生組合議会の補正予算案の審議で、増毛町に建設中の最終処分場建設工事に係る工事請負費（500万円）の増額計上と、アースラブ菌（生ごみを消滅させる菌）の購入に係る消費税相当額（145万円）の増額に対し質疑が集中し、採決の結果、賛成6名、反対3名の賛成多数で議決された。

二、8月10日の3市町首長協議において、最終処分場にはエゾシカを搬入できない旨や、高橋組合長からは焼却を含めた処理方法を検討する旨の説明があった。しかし、北海道との協議もまだなされておらず、処理施設の場所や方法も決定されていない状況である。

三、7月の議員協議会で組合から提示のあった新ごみ手数料の説明の際に、小平町としての軽減案を協議していたが、現時点では組合の方針がまだ確定していないため、町の事務手続きも進展がない状況である。